

## 【P 雲仙市-吾妻エリア Unzen City-Azuma Area】



雲仙市役所の本庁舎前から

雲仙市-吾妻エリアでは、“[北西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。雲仙岳の山岳信仰が盛んであった往時をしのばせるものとして、温泉神社の分社が2社(吾妻温泉神社・稲田神社)、現存しており、特に吾妻温泉神社は雲仙地獄にある本宮からいち早く分社された4分社の一つとされています。

山並みとしては、大峯～吾妻岳・鉢巻山～平成新山・国見岳・九千部岳・妙見岳～野岳～絹笠山といった並びで多くの山々が見えますが、バラの花のように互いに重なり合った形状をしており、眺望スポットが少し変わっただけで山の見え方が細かく変化していくのが特色です(↑↓)。相対的に目立つ山は、大峯・吾妻岳・鉢巻山です。大峯と吾妻岳は、[雲仙岳北端](#)を占める瑞穂エリアの山で、非常になだらかなシルエットが特徴的です(↑)。吾妻岳は特に大きく目立ち、旧吾妻町の名前の由来となった山です。鉢巻山は、当エリア内の山ですが、フタコブラクダのような形状で、斜面には“牧場の里あづま”があり、有明海を望める草原に黒牛が多数放牧されています(↓)。

島原半島には、[雲仙岳](#)の化身とされる巨人にまつわる伝説が多く伝わっており、有名なものは“みそ五郎”ですが、当エリアでは“大五郎(うーごろう)”という巨人の伝説が伝わっています。時に噴火しながら様々な恵みをもたらす[雲仙岳](#)に、人々が巨人のような力を感じていたのでしょう。

島原半島では、[雲仙岳](#)の火山活動由来の多様な土壌のため、様々な野菜が採れますが、当エリアの特産野菜は“雲仙こぶ高菜”です。葉の根元に特有のこぶがあり、スローフード国際協会の“食の世界遺産”にリストアップされています。

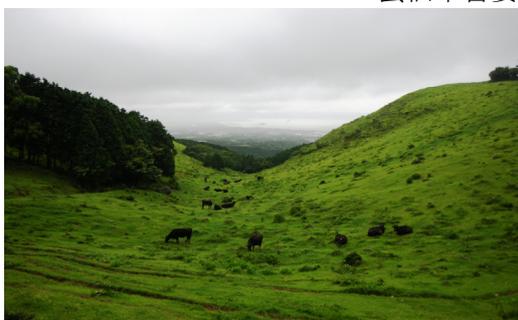
[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、吾妻エリアを旅してみませんか？

●吾妻エリアの観光情報はこちら↓

雲仙市観光物産課(ガイドブック) [http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol\\_id=10176](http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol_id=10176)



雲仙市吾妻エリアから(北西から)



牧場の里あづまの放牧草原



牧場の里あづまの展望台(万里の長城)から